

記録システム 洋才技術ロードマップ

2015

2020

2025

2030

交通事故削減に関する指標

(第9次交通安全基本計画による)

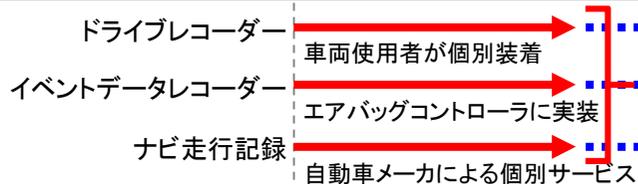
交通事故死者数2,500人以下(～2018)

世界一安全な道路交通社会(～2020)

世界一安全で円滑な道路交通社会(～2030)

プローブ情報端末関連技術

■ 情報提供型の安全運転支援端末(事故記録情報収集)

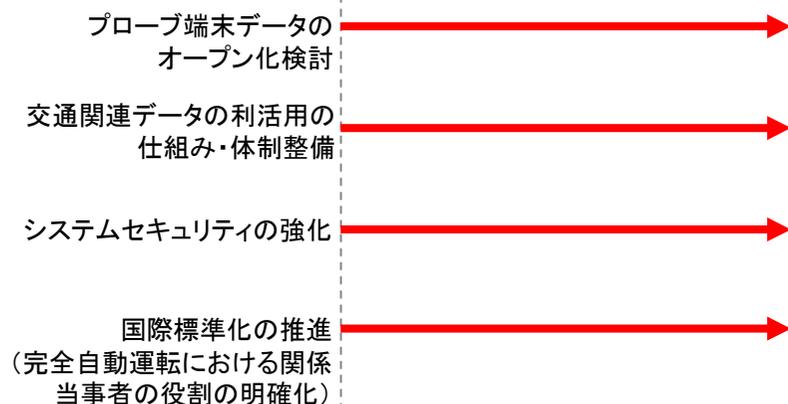


自動運転システムの端末として統合?(カメラ、加速度センサ、GPS、Vehicle to Xの通信機能*等)

安全運転支援端末の自動運転車両への普及・活用

交通関連データ(プローブデータ含む)活用に関連した環境整備

■ 交通関連データ活用のためのインフラ整備及び法的環境整備(渋滞の緩和, 交通事故等の削減, 新サービスの創出を目的とする)



プローブ端末データを活用した円滑な道路交通実現支援

データ収集, 活用における課題(官民ITS構想にて明確には論じられていない課題):

- データ収集・利活用における水平分業化のための環境・枠組み(民間企業・官の関り)
- 事故データの(裁判での)証拠能力の担保(データセキュリティ等)
- 収集されたデータのプライバシーの取扱い

*Vehicle to Xの通信機能: 車車間, 路車間等, 車対他の通信機能

参考文献

参考文献1:「第9次交通安全基本計画」平成23年3月31日

中央交通安全対策会議

<http://www8.cao.go.jp/koutu/kihon/keikaku9/keikakuall.html>

参考文献2:「官民 ITS 構想・ロードマップ 2015」平成 26 年6月30日

高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/pdf/20150630/siryou7.pdf>

参考文献3:「平成 21 年度 ドライブレコーダを活用した事故分析の

拡充・強化のためのフェージビリティ調査報告書」平成 22年3月

ドライブレコーダデータベース検討会

<http://www.mlit.go.jp/common/000114298.pdf>

※参考文献3は、ドライブレコーダの情報の活用方法の参考とした